

を設定するよう工夫すること。

つまり、「学習指導の過程で、児童生徒と共感的に同行すること」—これが、児童生徒の学習活動への相談的かかわりの一方法であると考える。

## 2. 学習指導における相談的かかわりの例

国語（毛筆書写）小学5年生 題材 親  
 ・「親」を「親」と書いた作品により相談的に学習指導を進めた例

◎本時のねらい 「親」の意味がわかり、字形をととのえて書くことができる。

◎授業の実際 ・T：教師 ・A, K, P：児童  
 ・( )：児童の学習活動の状況  
 ・<>：教師の相談的かかわり

T 「親」・おやーって、どんな意味？

P<sub>1</sub> お父さんやお母さんのことです。

P<sub>2</sub> 辞書にもそう書いてあります。

T 親—お父さん、お母さんって、みんなにとっては、どんな人？

P<sub>3</sub> 子供の世話をしてくれる…。

P<sub>4</sub> 子供や家族のために、いっしょうけんめい働いている…。

P<sub>5</sub> 私が病気の時、お医者さんへ連れていってくれたり、夜も寝ないで看病してくれたりしました。

P<sub>6</sub> 子供がすくすく育つように、けがなどしないように、いつも面倒を見てくれている。

T なるほど、みんなのことを見守ってくれているのが親—父、母なんだね。〈反応の受容〉

それでは「親」という漢字の組み立てをよく見つけてみよう。〈児童の知的好奇心を引き出す工夫〉

P<sub>4</sub> 立と木と見でできている。

P, T ホントだ…。〈身を乗り出して視、聴く〉

T<sub>1</sub> 立と木と見が組み合わさって、なぜ「おや—父、母」という意味を表すのでしょうか…。

〈児童の知的好奇心を引き出す工夫〉

A なにかで読んだことがある…さるの子どもたちが山で木の実を食べたり、遊んだりしているとき親ざるは木の上に立って、子ざるが何かに襲われないように見はりをしていた…って。そういうのが「親—父、母」だ…って。

P T なるほど…面白い話だね…。

<反応を受容し、児童と共に知的興奮を味わう〉

T それでは、いつものように先生が辞書（字源）で調べてみようか…「亲」は、ひつつく。「親」は、ひつついて見るということからおや、父や母のこと…だって。Aさんのお話によくにているね…。〈誤反応の修正と、反応の受容〉

（この話し合いを通し、「親」の意味と文字の構成を理解した上で、毛筆で書き始める）

K （「粗」と大書する）

P<sub>3</sub> K君の字、おかしいよ…（みんながゲラゲラ笑う）

K （恥ずかしそうに、教科書に書かれている親と自分が書いた粗とを見比べている。）

T <自信を失いかけているKの感情をくみとり〉  
 どれどれ、見せてごらん。〈身を乗り出して視る〉待てよ、「粗」というこの字にも、目をひつつけて見る—おや—という意味はないものかな？  
 <誤反応を大切にり上げる〉

P<sub>6</sub> う—ん。目をひつつけるという意味があるみたい。粗でもまるつきりまちがいではないみたい…。

T そうね。辞書には粗という漢字は無いものかな…。（児童、教師共に辞書をひく）〈共感的に同行する〉

P, T どうしても無いね…。

T でもK君は、見ていることを目で表したんだね？〈誤反応のわけを理解する〉辞書（字源）では目と、人を表すルで見となり、人が目をあけてみるという意味になるんだって…。〈援助・指導〉

K やっぱり、おやは、亲に見でなけりゃ…。（自己修正をし、「親」と大書する。）

—誤反応に相談的にかかわることにより、児童たちは親についてより深く理解することができた—

### おわりに

「学習指導における相談的かかわり」についての実践はまだ十分でない。今後は、ここに述べた相談的かかわりの考えを基に、実践を積み重ね、より充実した「学習指導における相談的かかわり」を具現したいものと念じている。

### 参考文献

- ・学級担任・HRTのための学校教育相談入門
- ・会報「教育相談」S57 千葉市教育研究会